スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道 旭川市

自 治 体 名 ： 北海道旭川市
担 当 課 名 ： スポーツ推進課
電 話 番 号 ： ０１６６-２３-１９４４

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	７４７．６６ ㎢
人口	３１７，１６７ 人
公立中学校数	２６ 校
公立中学校生徒数	７，１２９ 人
部活動数	２３５ 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

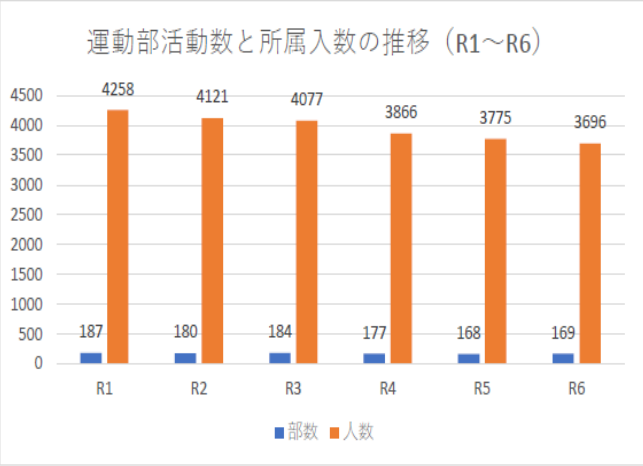
現在、本市では２６校ある公立中学校のうち２４校で運動部活動が設置されている。

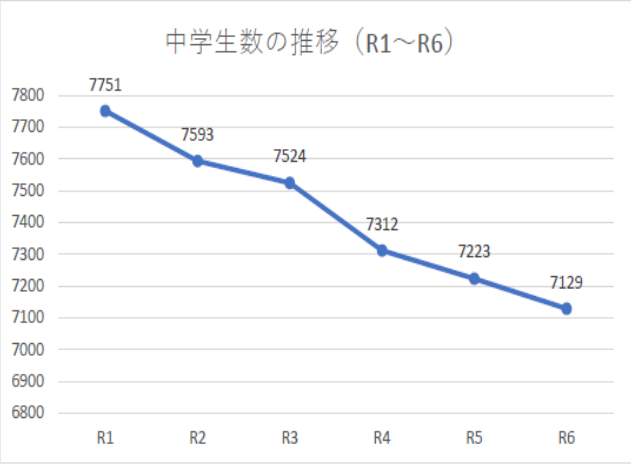
まず、市内の中学生数の推移を見てみると、令和元年度と比べて令和６年度の生徒数は６２２名の減少となった。また、運動部活動について見てみると、部活動数は１８減少し、所属している生徒数は５６２名の減少となっている。

データからも分かるとおり、本市においても少子化の影響は現われており、今後も生徒数及び部活動数は漸減していくことが見込まれ、部活動の在り方は検討しなければならない段階にある。そのため、令和５年度から実証事業を開始し、課題の抽出や地域移行のための様々な手法を分析しているところである。

本市の課題としては、指導者の確保が挙げられる。市内にどれくらい継続的な指導に従事できる人材がいるのか、受け皿となり得る団体がどれくらいあるのかといったことに関する情報収集はまだ十分とは言えない。

本市において実現可能な地域移行の在り方を、各種情報や実証事業によって得られたデータに基づいて検討していくことが喫緊の課題となっている。



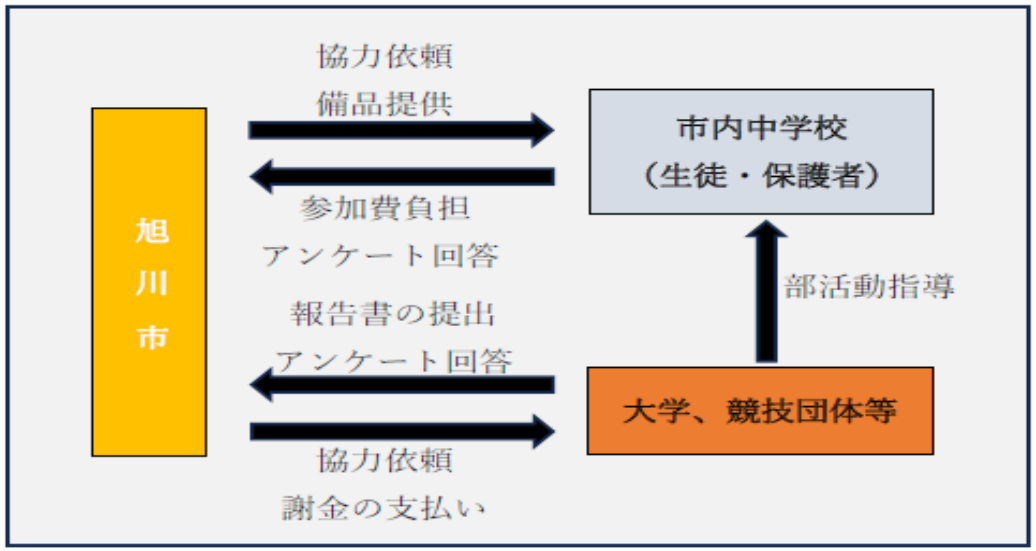


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・モデル校の選定にあたり、校長会との調整
・中学校に対するアンケート調査　　等

◉首長部局（スポーツ推進課）

・全体統括
・各団体等への実証事業への協力依頼
・指導報酬等の支払い
・アンケート調査の実施等

年間の事業スケジュール

令和６年７月	懇話会の開催
令和６年８月	各競技団体への協力依頼
令和６年９月	モデル校選定のため校長会への協力依頼
令和６年10月	モデル校への説明実施
令和６年11月	実証事業の開始
令和６年12月	同上／次年度以降に向けた競技団体へのアンケート調査
令和７年１月	同上
令和７年２月	同上 アンケートの実施／中学校に対する現状調査
令和７年３月	次年度へ向けた計画検討 懇話会実施

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

・市内で盛んであると思われる競技を対象に指導者の選定を行う
・指導者には、当課の活動や令和５年度の実証事業を通して一定の協力関係を構築することができた団体等を対象に今年度の実証事業への協力を依頼する
・実証事業の実施に先立ち、学校長と顧問との顔合わせ、事前打ち合わせを実施する
・なるべく週４回の指導機会を確保するよう協力を求める

対象種目	依頼先	資格有無
・バレーボール（女子） ・バスケットボール（女子） ・陸上競技	・バレーボール（女子） ヴォレアス北海道とのつながりから、元プロ選手の紹介・派遣を依頼 ・バスケットボール（女子） 旭川市立大学短期大学部の専門家に指導を依頼 ・陸上競技 道北陸上競技協会に指導者派遣を依頼	指導者には、資格の有無を求めていないが、大学や競技団体等で指導経験のある者、プロ経験者などに指導を依頼した。

取組の成果

・指導者には、概ね月４回程度の指導日を確保してもらい、土日を中心に指導を行ってもらった
・指導者の指導力の高さが周辺の中学校でも話題になり、合同練習会の実施などを実施した
・事業の実施に当たっては指導者と学校側で大きな問題は生じることはなかった
・顧問からは専門的な指導方法が参考になったなどの声が聞かれた

実証事業実施回数				
	11月	12月	1月	2月
バスケ	2	3	3	2
バレー	2	4	4	3
陸上	4	3	2	3

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

実証事業の内容

【バスケットボール】

旭川市立大学短期大学部の准教授である赤堀達也氏に指導協力を依頼した。各回、赤堀氏単独での指導ではなく、赤堀氏が指導を行っている北海道教育大学旭川校女子バスケットボール部の学生も複数指導に参加してくれ、モデル校の生徒たちは、比較的年齢の近い人から指導を受けられる貴重な機会となった。学生の中には教員を目指している者もあり、事業についてよく理解してくれた。また、大学生などの協力を得られれば、十分に地域の受け皿となり得ることを示してくれた。

【バレーボール】

ヴォレアス北海道経由で、ビーチバレーボール選手である戸田由里香氏に指導に入っていただいた。また、ヴォレアス北海道の元選手である田城広光氏にも１度指導に参加していただいた。

土日のみの指導だけではなく、学校側と打合せの上で平日に指導を実施するなど主体的に事業に協力してくれた。また、近隣の中学校との合同練習会なども実施できた。

【陸上競技】

道北陸上競技協会の飯塚享良氏に指導を行っていただいた。協会からの派遣ということで、モデル校の生徒たちはすでに大会などで飯塚氏と知り合っており、初回からスムーズに事業を開始できた。

飯塚氏には学校側とも直接スケジュールの調整を行っていただくなど、積極的に事業に協力していただいた。

今後の課題と対応方針

・指導者の確保に当たっては、少数のモデル校を対象に実施している実証事業であるために一定の質を保つことが可能であるが、全市的に地域移行を行う場合には、様々な手法を検討する必要がある。

・一般の方に指導を依頼する場合は、時間の確保が課題になると強く感じた。毎週定められた時間に指導を行える指導者を確保するためには非常に高いハードルがあり、入念に検討していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・教育委員会と協力し、校長会での事業周知
・校長会からモデル校への協力依頼
・モデル校から保護者への周知

取組の成果

・教育委員会と連携しながら、校長会での事業説明を実施し、モデル校選定への協力も依頼した。
・校長会への協力をはじめに取り付けることで、各中学校への周知、協力がスムーズに行えた。
・モデル校選定時には既にモデル校の校長や部活動顧問も事業をへの理解を示しており、事業を円滑に進めることができた。
・モデル校は対象となる部活動の生徒や保護者に事前説明を行ってくれ、事業に対する反発などは特段生じなかった。
・校長会を通して事業を展開することで、部活動の地域移行についての関係者の理解がより深まった。

今後の課題と対応方針

・今年度の実証事業では対象競技の選定後にモデル校を選定したが、３校中２校の顧問は競技経験者であり指導に当たって困難な事情は抱えていなかった。そのため、今後の課題としては、校長会との協力関係をより強固にし、市内の中学校で指導などに問題を抱えている部活動の把握を事前に行える体制の整備が必要であると感じた。具体的には、教育委員会が中心となり、各学校に対するアンケート調査などが挙げられる。来年度以降の実証に向けて、すでに取組みを開始している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

・実証事業の前後に生徒を対象としたアンケートやヒアリングの実施
・アンケートやヒアリングの結果をもとに、事業に生徒の意見を反映させる

取組の成果

・生徒は、外部指導者からの指導を受けることに対して肯定的に評価していた。一方で、学校から離れて地域のスポーツクラブに所属して競技に取り組むことについては消極的な意見もあり、今回の実証事業のように部活動の一部の指導を外部の指導者が行う体制を希望している者が多かった。
・部活動顧問は、実証事業による負担軽減は実感できなかったようである。
・保護者は、部活動への向き合い方や上達など子の変化を感じることが多かったようである。ただ、地域移行については肯定的な意見も多い一方で、反対する意見などもあった。月謝については、５，０００円以内であれば許容できるという回答が最も多かった。
・外部指導者は、週１回程度の指導では少ないと感じたようである。報酬については、妥当であったようである。学校との連携にあたり、日程調整が負担になっていることが分かった。

今後の課題と対応方針

・現状では、部活動で実証事業を行う際には顧問の立会いが必要であるため、実証事業を通して顧問は負担軽減を実感できない状態がある。また、実証事業を行うことで生じる新たな負担もあったので、次年度以降はその点もよく考慮して事業を実施したい。
・外部指導者と顧問との間での日程調整も負担になっている状況が明らかになったので、様々な工夫やツールの活用により解消していきたい。
・生徒やその保護者に対しては、地域移行の必要性をより丁寧に説明して、理解を深めていく取組みが必要であると感じた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

・モデル校と連携し、実証事業はモデル校の体育館等を利用して実施する

取組の成果

・校長会等の協力を得た上で実施した事業であり、今年度は部活動に外部の指導者が指導に入るというかたちで実施したこともあり、練習会場の確保等には一切支障は生じなかった。
・学校側は、実証事業に合わせて土日の体育館確保などに協力してくれた。

今後の課題と対応方針

・今年度の実証事業では、普段から活動を行っている部活動に指導者を派遣するというかたちで実施したため、会場の確保に困難は生じなかったが、今後、さらに事業が拡大し、部活動の地域移行が発展していった場合には、会場の確保やその費用負担には検討しなければならない課題が残っている。
・夏季であれば屋内競技と屋外競技で会場を分散することもできそうだが、冬季はすべての部活動が屋内の練習会場を確保する必要があるため、地域移行後の会場調整の方法やそもそも市内に十分な会場があるのかといった問題も検討していかなければならない。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は、中学校の部活動に指導者を派遣するというはじめての試みであった。スケジュールに遅れが生じるなど予定に変更は生じたものの、実際に指導を受けた生徒からの評価は高く、顧問からは指導を外部の指導者にお願いしたり、あるいは分担することによって負担軽減があったことを評価する声もあった。

今年度の実証事業では３校と数を少数に限定していたため、指導員の質の確保や学校側との連携などといった点では特段問題は生じなかったが、これを全市的に実施する場合には、様々なトラブルが生じることも十分に考えられるため、指導者や地域の受け皿の確保と並行して、全体を統括する組織の設立などについても慎重に検討していかなければならいと強く感じた。

●成果の評価

【指導者】

学校、指導者、市が連携することで円滑に事業を実施することができたのは大きな収穫となった。一方で、地域移行が拡大することに伴い、より多くの指導者の確保が必要になった際の連絡体制や採用基準等についてより検討が必要である。

【会場】

今回の事業では学校を利用することができたが、実際には学校以外の施設での活動も想定されるので、限りある市内施設の利用調整など来年度以降の課題となった。

【受益者負担】

今回、参加料は徴収するものの部活動費から捻出を予定しているため、保護者にとって個人負担という意識はあまり強くないと考えられる。来年度は移行は事業の実施方法などに工夫をして、受益者負担として妥当な金額をより検討していく必要がある。

●今後に向けて

今年度の実証事業では一定の成果を得られたものの、競技ごと、地域ごとに地域移行の在り方を検討する必要性を強く感じた。また、昨年度のように学校外で教室を開講したわけではないため、地域の受け皿の確保という点では進展がなかった。

来年度以降は、多様な地域移行の在り方、可能性を探っていきたいと考えている。今年度のように部活動に指導者を派遣するというやり方だけではなく、原点に立ち返って地域の受け皿の確保という点についても並行して検証していきたい。

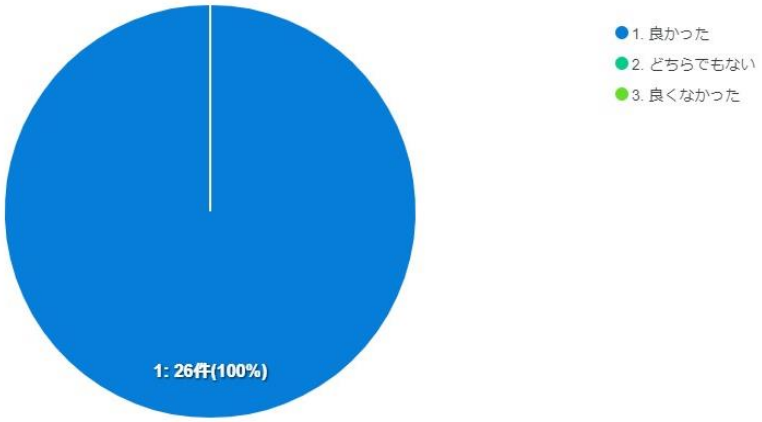
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

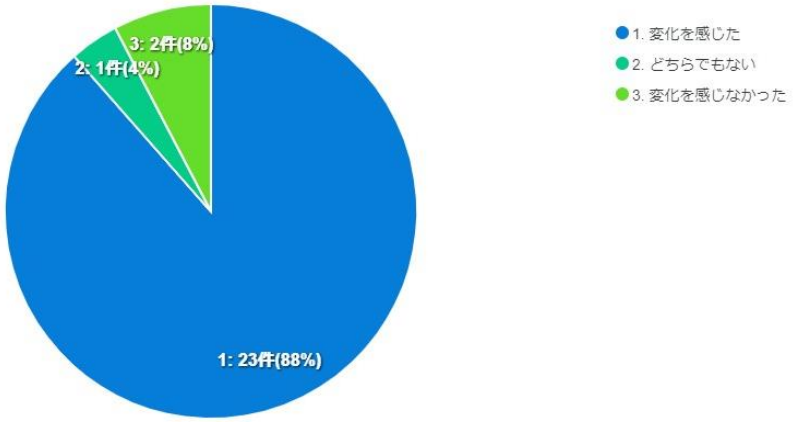
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（生徒）

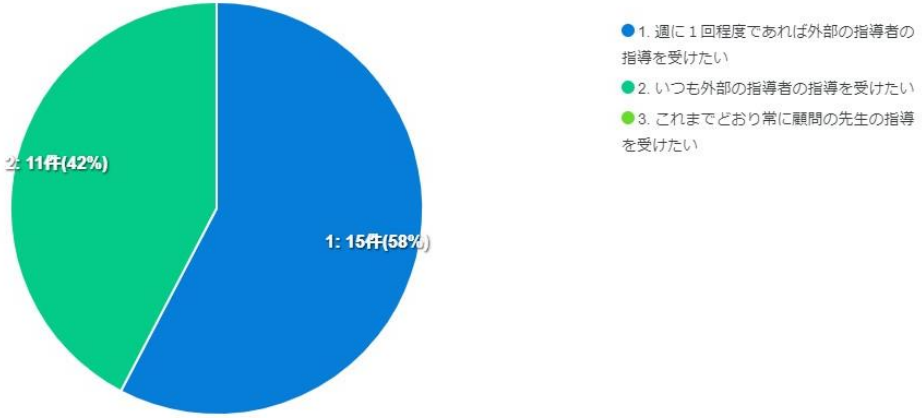
Q.外部の指導者の指導を受けた感想を教えてください



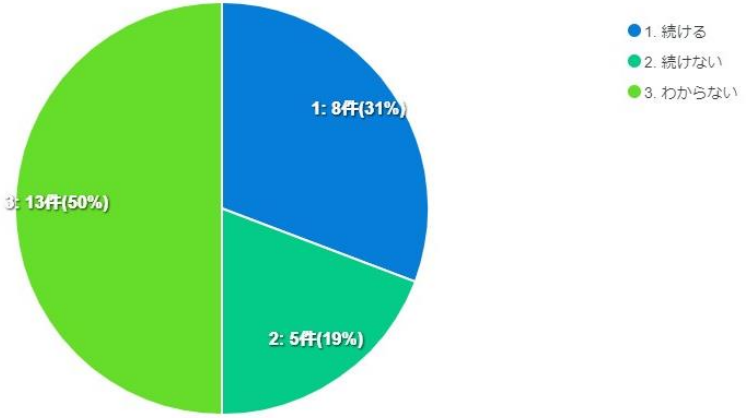
Q.外部の指導者から指導を受けて、競技を行う上で変化や上達を感じましたか？



Q.地域移行の在り方について、現在の考えに一番近いものを教えてください



Q.もし部活動がなくなった場合、地域のスポーツクラブなどに所属して競技を続けますか？



2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（生徒）

Q.外部指導者の良かった点（抜粋）

・専門の方が細かく的確に教えてくださったので、自分の知りたいことがよくわかったのがとても良かったです。
・顧問の先生だとあまり一人一人に丁寧には教えてくれないけど外部の人が来てくれることでわからないことを丁寧に教えてくれるので苦手なことがどんどん減ったのでよかったと思いました。
・普段と違うトレーニングをしてより成長できるているように感じた。新しい環境で部活しているようで刺激がもらえた。
・日頃の練習とは違ったことができていい刺激になったこと。指導が平日の練習にもいかせる内容だったこと。

Q.指導を受けて変化を感じた点（抜粋）

・サーブがよく入るようになった
・意識してなかった細かい動きを意識するようになって走った時に感じました！
・普段と違うトレーニングをしてより成長できるているように感じた。新しい環境で部活しているようで刺激がもらえた。
・細かい動きやコツの指導を受けたことによって自分の得意不得意について深く考えながら臨めた。
・顧問の先生と指導者の指導で上達のスピードが上がった。
・アタックを打つ時指導者が来る前はアウトばかりであまり上手く打てなかったのが自分の力をコントロールする方法を教えてもらいきれいなクロスやストレートを打てる頻度が増えた。

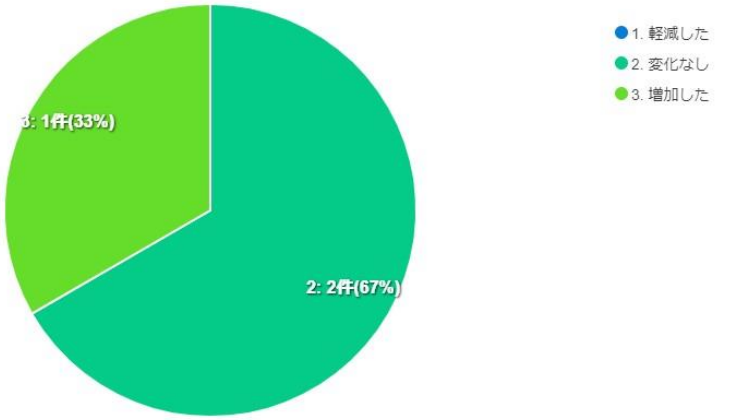
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

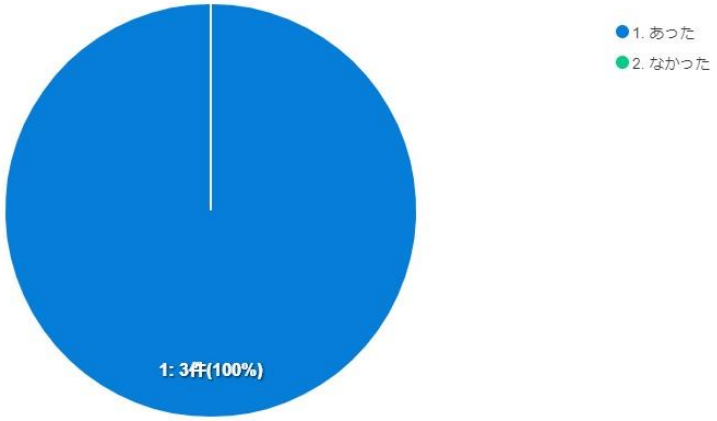
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（顧問）

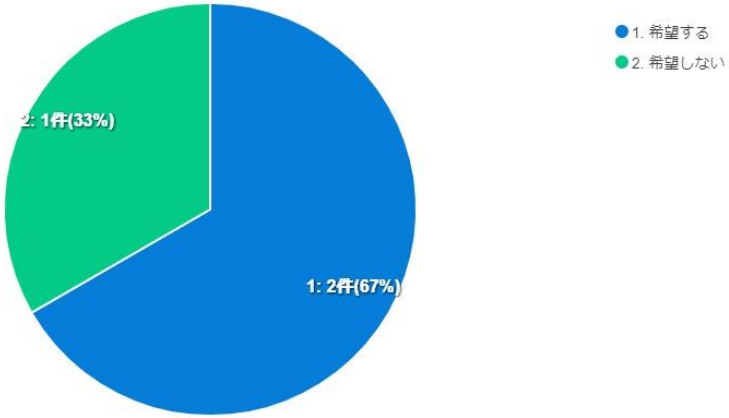
Q.実証事業により顧問の負担は軽減しましたか？



Q.生徒の様子に変化はありましたか？



Q.この取組みが制度化された場合、利用を希望しますか？



2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（顧問）

Q.顧問の負担が増加した点

・練習予定の連絡など、これまでは校内の連絡で完結していたものが外部指導者にも連絡が必要になりました。また、生徒・指導者の関係性などに気を配るという点ではこれまでにない状況でした。

Q.生徒の変化を感じた点

・一年生を中心に基礎技能の向上が見られた。練習に対するモチベーションが上がった。
・体の動かし方・使い方などが良くなった。
・専門的な視点からの助言や賞賛により自信を持つとともに意欲が高まった。

Q.将来的な地域移行に向け、期待すること、あるいは配慮してほしいこと

・今回はあくまでも顧問がいる中での実施であり、指導面の効果は大いに期待できた。ただ、顧問の負担という面では指導面の効果とやり取りにかかる手間を考えると変わっていない。今後顧問がいなくても指導する場面や活動を積極的に取り組むことで負担軽減につながっていくと思います。
・今回の実証事業は土日のみ月４回だったので、将来的な地域移行の程度がイメージできない中での考えになるのですが…先日、市内で部活動中の顧問の対応についての処分が報道されていました。部活動にはさまざまな生徒がいることや、生徒・指導者間だけでなく生徒同士でもトラブルは起こること、発生したトラブルの対応もするということも理解していただきたいです。また、クラブチーム等に見る勝利至上主義の指導とならないこと、発育・発達段階を踏まえた指導をすることなども考慮し、定期的な「指導者講習会」の実施や義務付け（毎回ではなくても、年に数回は参加するなど）も検討していただければと思います。

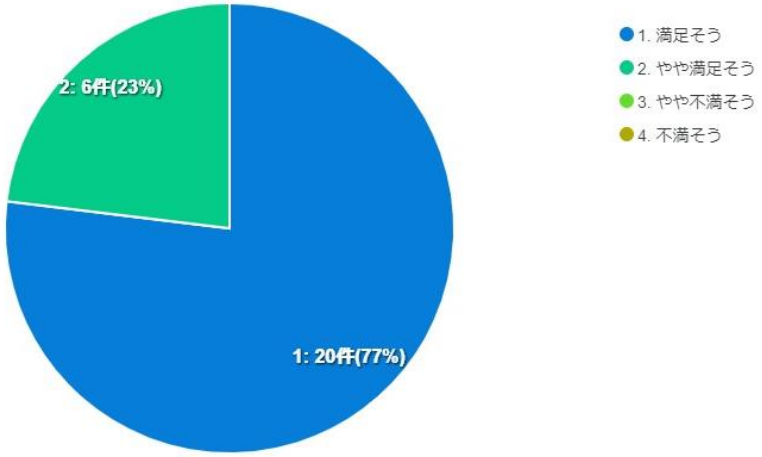
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

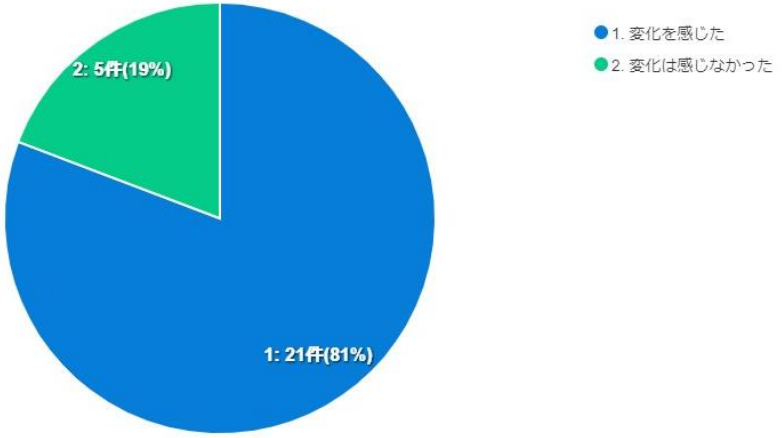
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（保護者）

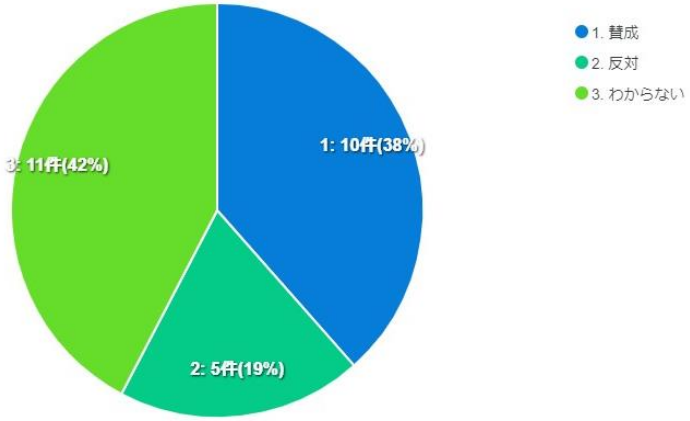
Q.外部の指導者の指導を受けたお子様の反応はどうでしたか？



Q.競技への向き合い方や上達などで変化はみられましたか？



Q.地域移行についてどのようにお考えですか？



Q.クラブ活動の月謝としてどの程度まで許容できますか？



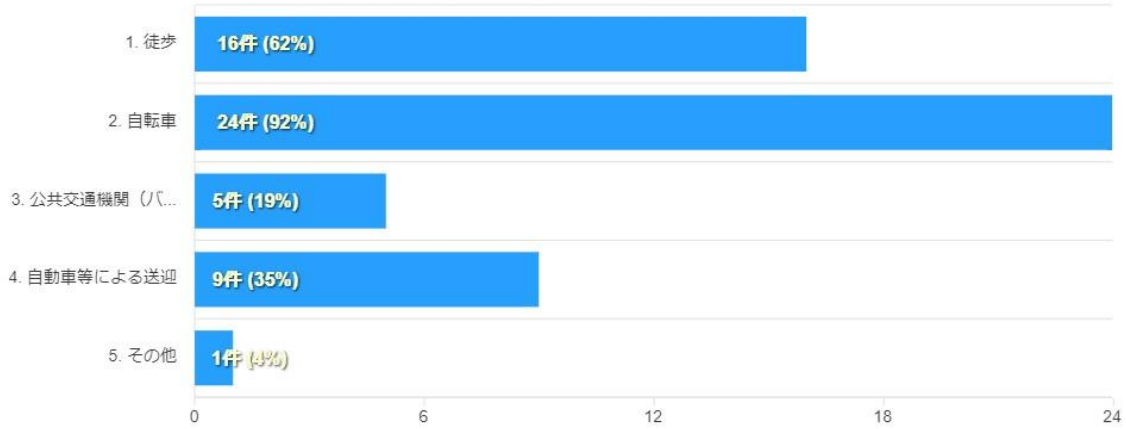
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（保護者）

Q.地域のクラブ活動に参加することになった場合、どのような移動手段が想定されますか？



2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（保護者）

Q.子供の変化を感じた点（抜粋）

・今までやったことがなかったトレーニングメニューを体験することができたようで、トレーニングに対する意欲が向上したように思います。
・試合で個々の成長を感じた。ミスによる失点がかなり減った。
・家で競技をするようになった。
・ポジティブな考えをするようになった
・教え方がわかりやすいと練習内容に満足している様子がみられ前向きに参加している。
・指導を受けた日は、できるようになった。調子よかった。などポジティブな言葉がきかれることが多かった。

Q.地域移行に対する考え、意見（抜粋）

・子供に運動をさせたい、部活をさせてあげたいですが、地域移行により、校区外になった場合、共働きでフルタイムで働いている親は送り迎えができません。冬場は自転車は無理なので公共交通機関を利用するとなれば、公共交通機関も場所によってはバスの便が悪いところもあり簡単には使えません。（旭川市は特に…地下鉄が無い、移動に不便です。）徒歩、自転車で遠くまで行くにはそれだけで体力を消耗してしまい、部活動に支障をきたしてしまうのでは？とも考えてしまいます。
色々な人に指導してもらったり、専門の指導者に教わる機会があることはとても良いことだと思います。
・通ってる中学校でできるのが好ましいが、人員や指導者負担等で別の場所で練習する形になったとしても仕方ないかな～と思います。そうなった場合はできる限り送迎等協力したいと思います。
・共働きの家庭では、学校以外が練習場所になると毎回送迎は無理。大会や練習試合以外は、基本学校で練習してほしい。
・全てが地域移行になってしまうと、教員との関わり方が薄くなってしまうのではないかと不安があります。
・場所が通ってる学校ではない場合、北海道は冬の移動が難しいのかなと思います。今まではかかっていない経費の問題も発生する事を改めて感じました。先生や子供たちにとって良いと思いますが簡単ではないのかなと感じました。

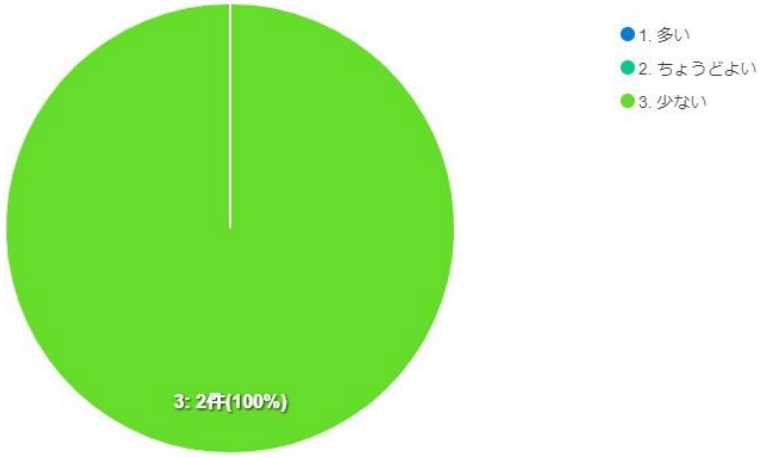
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

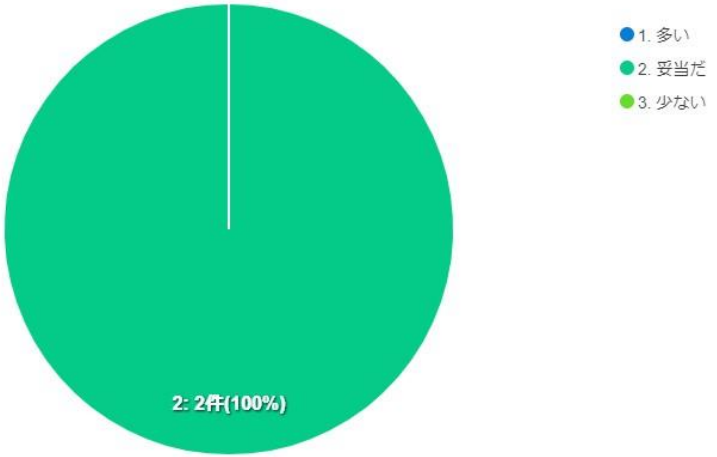
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（外部指導者）

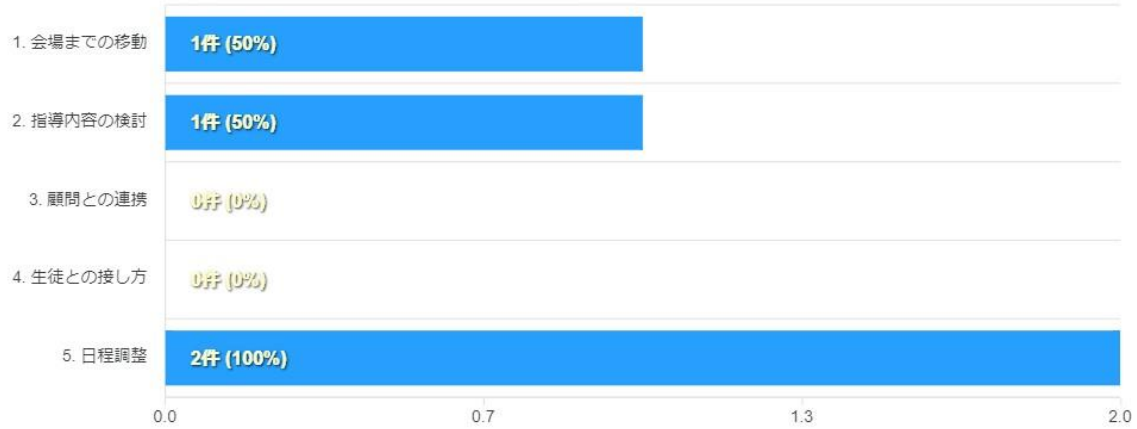
Q.実証事業の頻度（週１回程度）に対する感想を教えてください。



Q.報酬（時給１，６００円）に対する考えを教えてください



Q.実証事業で負担を感じた点を教えてください



2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（外部指導者）

Q.負担を感じた点の具体例

・負担ではないが指導は顧問の先生との連携が非常に大切で、今回は顧問の先生と面識があり意思疎通が出来たので練習内容を考えることが出来ましたが、そうでない場合は苦慮したかもしれません。
・日程調整は、自分の指導しているチームとの練習日程の調整が少しではありますが負担に感じることがあった。
・日程調整がかなり難しかった。外部コーチが平日の部活動の時間に行くのはほぼ無理がある。そのため土日しか行く時がないが、土日は1日だけしか活動ができないため、試合があると練習はできなくなる。特に現在は試合経験をたくさん積ませるように各協会が動いているため、今後も土日が練習できない傾向は強くなるはずである。

Q.指導を通して感じた地域移行に向けた課題

・監督がチームをどのような方向性に進めたいのかを事前に確認すること。
・日程的に数人体制での対応を考えた方が良いと思う。陸上競技の場合種目が多々あり大きく分けて長距離・中距離・跳躍・投てきがあり一応指導は出来ますが折角地域移行をするのであれば専門的な練習もさせてあげたいです。（それには団体としての対応が必要になりますが。） 指導場所の確保も課題になると思います。
・同一競技の複数のクラブへの加入を認めるのであれば、保護者や生徒さんのメンタルに影響がないか不安である。
・昨年度と今年度に携わらせていただいた。昨年度のスポーツ教室形式の方が同じくらいの気持ちの生徒が集まるため外部指導者はやりやすいと考えられる。また小学生も参加させることができ、拡大していく可能性があったと感じた。ただ広報と体育館の問題はあった。広報の問題は、チラシが学校についていないもしくは学校で配られていないようで、また協会に協力を要請しないということだったため、知らない生徒が多かった。また体育館は一般開放の時間はもうほとんど空きがない(2校のみで、それぞれ半面と1/3面しか空いていない)ため一般開放していない時間を借りた状況である。体育館利用ルール(10人以上・土日の一般開放など)から見直す必要があると感じた。そもそもこのルールがあると外部指導者は始めることができない。
今年度は、広報と体育館問題は解消された。しかしその学校以外の生徒が入る余地がなくなってしまうため、拡大する可能性はないと感じた。
学生コーチの参画はとても好感触であると感じている。生徒にとっても喜ばれているようである。これが続いていけば一般の外部コーチが増え、地域移行が進みやすくなる。今後も続けたい。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（外部指導者）

Q.外部の指導者が生徒を指導する上で配慮が必要であると感じた点

・生徒さんの情報をシッカリ学校などから得ることが必要。
・ 4ヶ月の短期間でしたが個々のメンタルの部分が見えてくると慎重な指導が必要。
・最近は部活のほかに別の活動をしている子供が多いので、そこの確認も必要。
・学校部活動を単位とすると、教育的配慮が必要な生徒も在籍することとなる。その生徒の扱いは、背景を知っている教員でないと難しいと感じた。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料（報道関係）

・北海道新聞（令和７年１月６日）
https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1107908/

・ＮＨＫ（令和６年１月27日）
https://www3.nhk.or.jp/sapporo-news/20250127/7000072905.html

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【バレーボール部】



【バレーボール部】



【陸上部】



【陸上部】

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【バスケットボール部】



【バレーボール部】

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【旭川市】運動部活動の地域移行に向けたスケジュール

観光スポーツ部スポーツ推進課

R4	R5	R6	R7	R8～R13
■現状の把握 ・中学生アンケート調査 ・競技団体ヒアリング	■懇話会の設置 ・実証事業の進め方 ・関係者への情報共有			改革実行期間

改革推進期間で本市の状況や環境にあった『運動部活動の地域移行』の在り方を検討

■実証事業①
～受け皿団体の実証～
競技団体と連携した『スポーツ教室事業』を通じて，受け皿になり得る団体との実証

■実証事業②
～部活動現場での実証～
モデル校で休日の部活動の疑似地域移行（地域の指導者派遣）による実証

■実証事業③
～部活動現場での実証②～
R6 の実証事業結果を反映した実証事業の実施

(1)競技団体へのアンケート
(2)中学校への調査
(3)7年度事業の検討